

## 北満開拓地の建設に就て

\* 中村孝二郎

1

滿洲特に北満洲に於て、日本内地人が農業者として喰つて行けるか何うかと云ふ點に就て、數年前迄は可成り種々の議論を耳にして居たが、其後日本内地人による満洲の開拓が愈々日満兩國の國策に採り上げられ、兩國政府が眞剣に其實行に着手する腹を決めてからは、やり様に依つては日本内地人の農業者も立派に喰つて行けるものと云ふ前提の下に、全ての計畫が進められても、餘り反対意見を聞かぬ様になつた。

此を過去の實績に鑑みても、去る大同元年に入植した第一次彌榮村(三江省樺川縣)でも、同二年に入植した第二次千振郷(三江省依蘭縣)でも、其々人口が千三四百名の多きに達し、日に月に伸展の一路を辿つて居るばかりか、今後の發展又驚畏すべきものがあるだらふと云ふ事は一度び同地を訪れた人々が一様に認める所であるから、日本内地人農業者が、北満で喰えるか喰えないかは、最早餘り問題にしないでもいい様である。

2

北満に於ける日本内地人の集團開拓地は、主として無住地帯に選定される關係上、開拓者は農業經營を開始する前に、先づ部落の建設を行はなければならない。一部の營農は此の建設に併行して始められるが、本格的の農業經營は建設作業が一段落ついた後に始められるので、専

心農業經營に從事するのは、先づ入植第四年か五年目からである。

日本人農業者が、日本内地と全く條件の異た北満で農業を營むのだから、随分困難もある幾多の失敗も繰り返すのが普通である。決し一年や二年の短期間で、立派な營農成績を擧る事は出來ないし、亦た要求する方が無理である。

然し營農開始後四五ヶ年も経てば、相當の績を擧げ得るに至るだらふし、進歩せる日本農業技術の適正なる應用と、協同組合の組織に活動によつて、附近の滿人農業者を遙かに駕する成績を擧げ得る事は間違ひ無いから、來の誤つた出稼根性を清算して、永住の覺悟下に働く開拓者の前途には、唯だ繁榮の一あるのみと斷言しても差支えあるまい。

3

開拓地の經營に於て困難なるは、將來の者よりも寧ろ入植當初の建設作業にある。此の建設作業の方針を見誤らず、亦た其實施に失しあれば、其次に来る農業の經營も、原則して概ね順調に行くものと考えて差支えない以上の關係から、私は集團開拓地の成否は、に懸つて其の建設作業にありと見て居る。

現在の集團開拓地は、一團地二百戸内至三戸で、其地區全面積は概ね三千町歩内至五千步見當である。戸數二百乃至三百の聚落は内地の農村とすれば、大きな部落に過ぎない

其でも此の大部落を二年内至三年の短期間に一應完成させると云ふ事は、現在の北滿洲の無住地帶に於ては、可成り困難仕事である。

此を現在の日本内地の一般の農山村地方に建設するのであれば、決して困難な仕事ではない。近頃は北滿の治安も非常に良くなつたが、其他の人文的關係は、此を日本内地に比べると半世紀以上も遅れて居る場合が多いから、例へ第一期の應急的建設であつても、二年や三年の短期間に完成させるのは、非常に困難な仕事と云つてよいだらふ。

其の建設作業が、大體豫定通り順調に進捗したとしたら、先づ開拓の第一步に成功したと見て差支を無い。

## 4

今日の日本内地の農山村は、此を滿洲特に北滿の農村に比ぶれば、文化の程度に於て相當進んで居るから、北滿に移住する日本内地人の開拓農民は、此を北滿の原住農民に比べると、生活の程度に於て可成り進んで居る。従つて開拓地に建設すべき部落も、原住者の部落に比ぶれば、程度が高いのは當然である。

日本内地人の開拓地に於ては、滿人部落には全く見られない、幾多の公共施設や産業施設が是非必要である。例へば學校、病院の如き公共施設も必要であり、亦た各種の農産加工場の如き産業施設も必要となつて来る。即ち建設の量に於ても質に於ても、斷然原住民部落の比で無いのに、普通であれば十數年間もかゝつて順次に建設されるものを、二三年の短期間に一氣呵成に完成させ様と云ふ點に當然困難が胚胎して居り、時として無理を伴ふのである。

加ふるに北滿に於ける建設期間は、自然的に

非常に制限されて居る。例へば建築は、先づ一ヶ年の半分即ち六ヶ月位に限定されるし、現在の交通路の状態では、建築季節に於ける材料の輸送能率は、冬期結氷期の半分位に減るし、雨期の如きは或期間全く輸送が不可能となる状態であるから、日本内地で想像したのとは非常に勝手が違つて居り、思はぬ異算を生ずるのが常である。

## 5

以上の次第であるから、附近の鐵道停車場又は經濟中心地から開拓地に通する道路の良否は、開拓地の經營に重大な關係がある。此は獨り建設期間のみならず、營農が始まつてからも同様である。

假りに此の幹線道路が完備して居り、解氷期と云はず雨期と云はず、一年中自由に貨物自動車や大車によつて、結氷期間と同様に輸送が出来れば、建設作業も容易となり、従つて建設期間も短縮され、建設費を低下せしむる事も出来る。

現在では種々の關係から、開拓地の決定が遅れる爲め、開拓者の入植と併行して道路工事が開始される有様であるが、更に一步を進めて入植の前年迄に道路を完成して置く様になると、其の建設に及ぼす影響は著るしきものがある。

昨秋滿洲の開拓地を視察に來られたある廣島縣人が、面白い話をして呉れた。其人は今から三十數年前に北米に出稼に渡つて、加奈陀境のモンタナ州で氷い間働き、數年前に錦を飾つて郷里に歸つて來られた相だが、其人がモンタナ州の開墾地に入つた頃は、同地方の道路も丁度現在の滿洲の道路と全く同じで、鐵道を捨て、移住地に入る際には、殆んど道路を造りながら

入つて行つた相であるが、其モンタナ地方が今では立派に開拓されて、補装した自動車道路が四通八達して居ると云ふ事である。然も農業地としての天然條件は、満洲の方が全てに於て勝つて居るから、三十年後の満洲の開拓地は、必ずや目覚ましい發達を遂げ、道路の如きも立派になる事は間違ひないから、安心して開拓の仕事を進めて頂きたいと、力強い助言をして廣島に歸つて行つた。

亦た最近に新京を訪れた、一人の北米歸りの農業家があつた。其人は現在北米ワシントン州の東部で相當な農場を經營して居る相だが、農場で生産された蔬菜類は、全て貨物自動車に積んで西方百五十哩もあるシャーツル迄搬出して販賣し、歸りに日用品を購入して來るのだが、自動車道路が完備して居るから、眞に一舉手一投足の勞に過ぎぬと話して居た。

以上の話に徴しても明かな如く、開拓地に通ずる幹線道路が完備すれば、建設も容易となるし、經營も非常に有利となるから、北満の開拓は先づ道路からと云はなければなるまい。

## 6

開拓地に於ける生活諸要素の内、解決最も困難なるは「住」の問題である。北満開拓地の寒地生活に於て、「衣」と「食」とは之を「住」に比べると、割合に解決が容易である。

「衣」は防寒被服にしても、満洲服を使用すれば充分防寒の目的を達し得るし、然も現在の所では一番經濟的である。

「食」の問題は、北満到る所米も雜穀も蔬菜も見事に出来るから、日本人農業者として少しも困らない。唯だ蔬菜の冬期間の貯藏法を、今少し研究して、簡易で然も有効な方法を案出され

ばよい。更に満人と同様に、冬期間に脂財類をもつと調理に使用する様になれば、一應解決はつく。

然るに「住」の問題になると、北満の開拓地では何んなに程度の低いものでも、兎に角防寒家屋でなければならない。從つて日本内地の農山村に比して「住」に一番金がかかる事が、北満開拓地の經營上相當の障礙である。

建築費の點から云へば、其地方々の満人家屋が一番安いが、此を日本内地人が使用する場合には、相當改造する必要がある。特に防湿、換気、採暖の點に於て、充分改善する必要があるが、一應現在の満洲式家屋を改良して使用する事が、最も經濟的の場合が多い。

此の「住」に關聯した大きな障礙は、多くの日本人開拓者が、寒地の生活に経験が無い爲め、防寒家屋に住つても、其使用法を全く知らず、其が爲め折角防寒家屋の持つ特徴を、反くて殺して終う場合が多い。其であるから、開拓者に寒地の生活法並に防寒家屋の使用法を教える事が、當面の急務である。其さえ含み込まれば、開拓當初の住宅として、現在の満洲式家屋を二三改良した丈で、相當辛拂し得るものと考える。

## 7

満洲式家屋の建築費は、木材の値段に依つて左右される場合が多い。即ち森林地帯に近い方の建築費は、森林に遠い平野部に於ける建築費の一以下の場合が多い。

建築は、出来る丈現地に生産する材料を使用する事が、經濟的だと云はれて居るが、特に交通不便な北満の開拓地に於ては、出来る丈現地の材料を使用する工風をしなければ、經済

的に建築をする事の出来ない事は云ふ迄もない。此に反し、遠隔地の材料を使用する場合、昨今の状勢では、先づ豫定の期間内に、豫期の建築を完成し得るのが普通である。然しくら現地の材料を使用するとしても、一部分は何うしても地域外から供給を仰がねばならぬし、亦た地域内にて蒐集し得る材料でも、若干の運搬は必要であるから、材料の運搬時期が非常に關係がある。

幸に前年の結氷期迄に建設の方針が決定し、冬期間に材料を搬入し終つて、解氷を待つて直ちに建築に着手し得れば理想的であり、建築費も切り詰める事が出来るが、從來の開拓地の建

設に於ては、其反対の場合が多かつたので、非常に労力と費用の無駄があつた。

更に北満に於ける防寒家屋の建築、特に壁體の大部分が土から成つて居る滿洲式家屋の建築は、乾燥の關係から、晚くも八月末頃迄に完成させなければ、第一年の冬期間は殆んど使用に耐えね位であるから、此の關係からも、北満開拓地の家屋建築は、季節的に非常な制限を受けて居る。

斯くの如き季節的の制限が多い事を想ふとき、交通路の整備は、北満開拓地の建設に一層重要な關係を持つ事を知る。

## 第3回土木講習會講演集發賣通知

⑥第3回土木講習會講演集發賣通知するや全満各地より以外なる好評を得申込多數に上り残部少くなりました内容目次は下記の通り210余頁に及ぶ堂々たるものであります。

1. 開會之挨拶…………理 事 坂田昌亮
2. 道河改修計畫…………交 通 部 原口忠次郎
3. 道路の構造物の凍害に就て…………交 通 部 米田正文
4. 河川の基本調査に就て…………交 通 部 照井隆三郎
5. 寒中コンクリートの現勢…………土 建 協 会 員 銘 簡 好

6. 河川の冰害…………交 通 部 橋内徳治
7. 朝鮮の河川…………朝鮮總督府 川澤章明
8. 最近のセメントの趨勢に就いて  
……小野田セメント 西脇 寛  
……鞍山工場長
9. 土木工事用滿洲產木材に就いて  
……滿鐵々道 布施忠司  
研究 所

會員の方には定價1.20錢の處1.00錢にて配布致します御入用の方は交通部道路司内滿洲土木研究會宛送金申込被下さい。